

科目名		建築一般構造 1							年度	2025
英語科目名		Building Construction Method 1							学期	前期
学科・学年		建築学科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員		宮部 瑛理	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		
【科目の目的】										
・木造独自の構造・工法、材料、骨組み、構造形式、各部の名称と仕組みなどを理解できる ・工法および材料の特徴や長所・短所などが、設計計画上で重要なことを理解できる ・二級建築士の資格取得のための基礎知識であることを理解できる										
【科目の概要】										
建築物を計画するにあたり、「構造・工法」や「材料」、「納まり」などの特性を知り、それを最大限に活かすことが重要である。イラストだけではなく各伏図を描きながら部材の「名称」、「寸法」、「役割」などを学び、建築物の計画へ応用させるための基礎知識を学ぶ。										
【到達目標】										
A. 木構造の特徴および歴史的背景を理解している B. 軸組工法および枠組壁工法の特徴や各部材の役割を理解している C. 仕口・継手および接合金物の仕様がどのようなものか理解している D. 仕上げや納まりがどのようなものか理解している E. 軸組工法における耐力壁のバランスの重要性を理解している										
【授業の注意点】										
テキストと配布資料をよく理解し、予習・復習を行うこと。 なお、確認テストや中間テストは未提出となると0点になるため注意が必要。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	木造・歴史を深く理解し、建築計画に活かすことができる		木造・歴史と建築の関係性が重要だと認識している		木造・歴史と建築には関係がないと考えている					
到達目標 B	工法の特徴を深く理解し、建築計画に活かすことができる		工法の特徴と建築の関係性が重要だと認識している		工法の特徴と建築には関係がないと考えている					
到達目標 C	接合部の特徴を深く理解し、建築計画に活かすことができる		接合部の特徴と建築の関係性が重要だと認識している		接合部の特徴と建築には関係がないと考えている					
到達目標 D	仕上げや納まりを深く理解し、建築計画に活かすことができる		仕上げや納まりと建築の関係性が重要だと認識している		仕上げや納まりと建築には関係がないと考えている					
到達目標 E	耐力壁を深く理解し、建築計画に活かすことができる		耐力壁と建築の関係性が重要だと認識している		耐力壁と建築には関係がないと考えている					
【教科書】										
初めての建築一般構造／学芸出版社										
【参考資料】										
ビジュアルハンドブック必携建築資料／配布プリント										
【成績の評価方法・評価基準】										
学期末に行う定期試験、授業中に実施する小テスト、アクティブラーニングの理解度で学力を評価する 出欠席および授業の通り組み姿勢で評価する										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

